金剛寳戒寺便り

一月一日発行　第十号

檀信徒の皆さま、新年明けましておめでとうございます。良い年越しをする事はできましたでしょうか。旧年中は大変お世話になりありがとうございました。どうぞ本年も宜しくお願い申し上げます。

さて昨年初めに御案内致しました、高野山開創千二百年記念大法会団体参拝ですが、お陰さまを持ちまして定員に達しております。大分県下では二百名、当山からは三十名のご参加を頂きました。心に残る団参にしたいと思っています。今から楽しみです。

昨年十二月三日に当山で行われました「高野山結縁行脚」は七十名以上のお参りを頂きました。「祈念三鈷本尊」「巨大撫で三鈷」「不滅の聖燈」をお迎えしての千巻心経の前に、深見博さんによる「お大師様～弘法大師空海一代記～」の紙芝居を披露して頂きました。博さんの熱のこもった講演がお大師様の御誓願と高野山開創における三鈷杵の由来を心に届けて下さり、とても好評でした。今回の千巻心経では本堂が手狭に感じるほどでしたが、椅子席も設けましたので足の悪い方も参加下さり、皆様と共に高野山ご開創成満の祈念と年末の良いご供養が出来ました。各々記念撮影などが終わった後には、荷揚町の福寿院様まで僧分、檀信徒さま合わせて十一人で行脚も致しました。翌日には大分支所下の青年僧を中心に二十五名以上で大分市内から別府の高野寺様まで約十一キロを四時間かけて行脚致しました事も御報告させて頂きます。道中は宝戒寺の総代徳丸様宅でお昼のお接待を受けました。今回の行脚でも多くの方々のご協力を頂きました事、厚く御礼申し上げます。また県下でも結縁行脚の法要が出来たのは五ケ寺のみです。その事を皆様と共に誇りに思いたく存じます。

来月二月三日には例年通り星祭りの供養を行います。星祭りは「星供」（ほしく）「星供養」（ほしくよう）等とも呼ばれますが、人が生まれ持った「星」と一年ごとに巡って来てその年の吉凶を左右する「星」を供養し個人の一年間の幸福を祈り災いを除き、大難は小難に、吉はより良くなる様に祈祷します。一般に旧暦の年の初め「立春」に行われる事が多いです。

世間的には「大厄」等の厄除けで周知されていますが、本来は毎年行われる祈願で宗祖弘法大師様、御請来の宿曜経による真言宗の祈祷はその中でも本流です。また厄年の前年を前厄、後年を後厄と言いますが、当山では特別ご希望がない場合には大厄には金蘭札それ以外には紙札をお出ししています。

男性大厄（数え年）

二十五歳　平成三年生まれ
四十二歳　昭和四十九年生まれ
六十一歳　昭和三十年生まれ

女性大厄（数え年）

十九歳　平成九年生まれ
三十三歳　昭和五十八年生まれ
三十七歳　昭和五十四年生まれ

仏教では回向（えこう）という思想があります。その考え方の一つは「自分の修めた功徳を他にも差し向け、自他ともに悟りを得るための助けとすること」です。功徳にも様々有りますが、その一つに「お布施」があります。年末には仏教会の歳末助け合いで、皆様から五万五千九百五十五円もの浄財をお預かり致しました。一人ひとりの金額は小さくても、その志が集まれば大きなものとなります。私が歳末にお願いすると「一年間、家族が健康で大過なく過ごす事が出来ました。」と感謝の気持ちと共に寄付をして下さる方が沢山いました。私たちはなかなか直接的に、お身体などが不自由な方と接して、手を差し伸べる事が出来ませんが、この浄財は点字ブロックや車いす等に代えられます。善行を積んで下さった皆様方本当にありがとうございました。

若い方にはお寺＝お葬式といったイメージがあるかもしれません。もちろん葬儀やご供養は大切な仕事の一つですが、それは人生の四苦八苦「生老病死」に大きく関わるからです。宗教の責務は幸せな人生を送るための道しるべである事だと思っています。「お陰様」の心を持ち「皆様と共に心豊かな人生を送りたい」との願いを年始に書かせて頂きました。